

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503510		
法人名	医療法人中山会新札幌パウロ病院		
事業所名	医療法人中山会 グループホーム夏桜		
所在地	札幌市厚別区青葉町16丁目2-26		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成25年10月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503510-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503510-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

楽しい外出行事やイベントが多くあり、地域との結びつきが強い。  
毎年季節ごとに花見、紅葉狩り、初詣に出かけている。今夏は全入居者さま、ご家族さま、地域の方々とともにガーデンへ行楽に行った。さらに、法人主催の夏祭りや歌合戦、作品展、クリスマス会へ足を運んだり、地域主催のバーベキューやピアノコンサート、盆踊りなどへ積極的に参加している。  
ホーム内では個別の誕生会、敬老会、開設記念の会食、クリスマスパーティーなどを行っている。  
8月には江別蕎麦打ち同好会が来訪して目の前で打ちたての蕎麦をふるまってくれるなど地域の方との交流が深まっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム夏桜」は、札幌市郊外の自然環境に恵まれたバス停近くの静かな場所に位置している。建物は、近隣の緑の中に映える美しい赤紫色で、玄関先に置かれているベンチとテーブルでは、季節に応じて外気浴やバーベキューなどを楽しんでいる。開設当初から地域との交流も多く、ボランティアの方々を借りながら散歩や地域行事などに積極的に参加してつながりを深めている。ホーム長は、年月の経過と共に重度化して来た利用者も、少しでも長い時間「夏桜」で生活できるように支えていきたいという思いで、個々に応じた細やかなケアを職員と共に行っている。毎年家族と面談をして思いや悩みを聴き取り、介護計画に意向を反映できるように努めている。職員の意見にも常に耳を傾け、ケアの充実と共に職員の負担軽減に向けて早朝勤務体制を充実させるなど、常に働きやすい環境整備に配慮しており、職員の定着率も良く、安定して統一したケアが行われている。法人内外の研修体制の充実など、職員の育成にも力を注いでいる。献立は、食材を活かしながら利用者の意向を聞き、彩りや味付け、栄養バランスなどに配慮した家庭的な食事が提供されている。職員と利用者は明るい笑顔で会話を交わしながら、生き生きとした時間を過ごしているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(1階はる風アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の共通基本理念である「大切な命を元気で楽しい命に」の下に5項目の基本方針を掲示し、毎月のカンファレンスで全職員が斉唱している	法人の地域密着型サービス事業所共通の基本理念を基に、「地域、ご家族との連携」という文言を部署目標の将来像戦略に掲げている。毎月各ユニットのカンファレンスで基本理念と部署目標を確認して、全職員で実践できるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入してゴミ拾いや、パーベキューなど積極的に行事参加をしている。地域のボランティアが毎月ホームを訪問しており、なじみの関係が構築されている。町内会の盆踊りに職員の同行なしで、ボランティアと参加するなど信頼関係が出来ている。	開設当初から、地域との交流が活発に行われており、行事での交流の他、毎月ボランティアが訪問して、散歩や会話、食事などを一緒に楽しんでいる。近隣から、お花や野菜を頂く事もある。地域の小学校とは、鈴虫交流会などで交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ家族の参加を呼びかけ、毎回テーマを決めて「認知症の方への理解とケアの方法」などの勉強会を実施している。また事業所での生活の様子を盛り込んだ広報誌を作成し、町内会で回覧してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に町内会長、民生委員、地域包括支援センター、消防団、家族などが参加して、事業所の行事や研修の報告をし、防災などについて話し合っている。また、外部評価の結果を報告し、出された課題について話し合い、内容は全体カンファレンスで発表して、サービスの向上を図っている。	年度初めにテーマを設定して家族に伝え、開催案内も毎回送付している。認知症の基礎知識や地域包括支援センターの役割、災害支援などについて取り上げ、消防団からは、災害時の具体的な対応などについてアドバイスをもらっている。会議内容はホーム便りに記載していたが、今後は議事録を全家族に渡す意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市主催の研修会、グループホーム管理者会議、集団指導に参加している。困難事例や正しい記録の方法などを担当者に直接相談して助言をもらっている。	介護記録の記入方法や行方不明時に備えての顔写真の開示など、個人情報の取り扱いについても相談してアドバイスを受けている。生活保護課の職員が来訪した時は、本人の様子を話しながら課題があれば相談をして解決につなげている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束についての外部研修を受け、その後全体カンファレンスで発表することにより、全職員が禁止の対象となる行為を理解している。玄関は様々なリスクや防犯上のこともあり、ご家族の了承を得たうえで、平成24年7月18日から施錠をしている。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を含む、法人独自のマニュアルを作成している。定期的に法人研修と内部研修を行い、リスクを防ぐために適切な対応について職員間で話し合っている。ホーム長や管理者は、職員が気になる言動をした時は、その都度話をして適切なケアの方法を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、外部研修で高齢者虐待防止法等について学んでいる。その後、内部研修で全職員が具体的な内容を確認して防止に努めている。		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、外部の研修に参加し、その後内部研修を通して全職員が学ぶ機会を持ち、活用に備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には「重要事項説明書」を渡して十分な説明を行って同意を得ている。また医療連携体制や重度化した時の対応についても説明して同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置したり、サービス担当者会議やホーム便りでも意見、要望を聞いている。また、平成24年11月に家族アンケートを実施し集計結果をカンファレンスで話し合い、運営に反映させている。	家族が来訪した時は、積極的に本人の様子を話しながらコミュニケーションを取り、意見や要望が言しやすいような雰囲気づくりに配慮している。家族からの意見や要望は、全職員が把握できるように個人ノートに記録している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は定期的な個別面談を実施して、職員の意見や提案を聞いている。また月2回のカンファレンスでは、積極的な意見交換がなされ運営に反映させている。	職員は、会議の中でも意見が言いやすい雰囲気であると感じており、活発な意見交換が行われている。職員の意見が活かされ、今後更なるケアの充実に向けて、早期勤務者の増員も行われる。職員は、行事や研修担当、委員会などの役割を持ち運営に携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年SUS(ステップアップシステム)シートに自己評価を記入し、上司と面談をして目標を発表したり、コーチングを受けている。その結果が昇給に繋がる仕組みになっている。また、研修や勉強会の参加を促し、モチベーションやスキルアップを図れるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では介護福祉士や介護支援専門員の受験講座やコミュニケーション研修などを実施している。また、様々な外部研修に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症高齢者グループホーム協会に加入しており、連絡会や勉強会に参加している。また、厚別区グループホーム合同研修会などを通して同業者との交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行って、本人や家族から生活状況の把握をし、困っていることや要望を聞いている。センター方式を利用して本人の全体像を理解し安心した生活ができるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から相談された時は傾聴して要望を理解し、不安を取り除けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人が一番に求めている支援に対応するよう努めている。また、必要に応じて他のサービス機関に連携出来るよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を人生の先輩として敬い、暮らしの中で得意なことを見つけ、力を発揮してもらえるように支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時に日頃の様子を伝えたり、行事への同行を依頼している。体調の変化があれば連絡して受診の協力をしてもらっている。また必要に応じてサービス担当者会議を開き、共に支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の訪問は自由にしてもらっている。また外食や旅行、墓参り、帰省などの機会を支援している。毎月送付しているホーム便りに一人ひとりの様子を載せて知らせている。	自宅近くの知人や仕事関係の方が来訪する事もあり、職員が仲立ちしたり、居室で過ごしてもらうなど、各利用者に応じた対応で馴染みの関係が継続できるように支援している。家族との外出の他、職員と一緒に買い物などに出かける機会もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円滑に出来るよう、役割活動やレクリエーションの機会を支援している。参加に消極的な利用者を他者が誘ってくれる場面が日々見られる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も移行先へ面会に行くなど、関わりを継続するよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中で、一人ひとりの言葉や表情や行動から各々の意向や要望を理解出来るよう努めている。本人の意思を尊重しながら共同生活を送れるよう、個別ケアに取り組んでいる。	利用開始時の生活歴や趣味などの情報を基に、日頃の会話や仕草、表情などから思いや意向を把握して、職員間で情報を共有しながら各利用者に応じた対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談以降は、サービス担当者会議やケアプラン更新時に生活歴や環境などについて聞き取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「暮らしの様子シート」や「個人記録表」に毎日記入し、申し送りで情報を共有している。変化が見られた時は、個人ノートに記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表をもとにカンファレンスにて本人の生活満足度、新たな課題の有無、適切なケアができていのか等を話し合っている。サービス担当者会議やケアプラン説明時には家族に意見や要望を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	可能な限り、事前に家族の意向などを聞き取り、全職員で意見交換をして3か月毎に更新計画を作成している。入退院など、身体状況が変化した時は随時見直しを行っている。介護計画と日々の記録が連動するような記録に、現在取り組んでいる。	利用者の課題になっていることを整理して定期的に蓄積しながら、介護計画と日々の記録を更に連動した記録になるように検討したい意向なので、その取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙に、バイタル、水分、食事量、排泄、特変事項を記入して、職員間で共有している。ケアプランについては、実施表で毎日チェックして、カンファレンスでモニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と連携し、利用者の健康管理を行っている。必要に応じて訪問歯科受診や訪問理美容、カイロプラクティックなどの各種サービスに繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域の一員として、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう、町内会・地域ボランティア・民生委員・消防団・地域包括などの協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、家族の希望によって決めている。基本的には受診は家族対応となっており、利用契約時に同意を得ているが、状況によっては職員が同行することもある。	家族と一緒にかかりつけ医を受診する時は、必要に応じて本人の情報を提供したり、担当医と直接連絡を取り合い適切な医療が受けられるように支援している。往診記録の他、受診内容を個人ノートに記録して健康状態を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所母体の医療法人新札幌パウロ病院の訪問看護師が毎週訪問して、健康管理をしている。体調に変化があれば相談して適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報を伝えている。また、早期に退院できるように職員が来院して本人と面会し、病院関係者や家族との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に「医療連携体制に関する指針および重度化指針」を示して説明し、同意を得ている。終末期の看取りは行ってないため、重度化した場合は、かかりつけ医・訪問看護師を交えて家族と話し合い、チームで支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の対応に係る指針」と共に、経口摂取が出来なくなった場合や、常時医療行為が必要になった場合は事業所での対応は難しい旨を説明している。主治医の判断の下、本人にとって最善の方法を家族と共に検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年防災協会の担当者が来訪し、普通救命講習を受けている。また、元消防団員だった地域の方から、応急手当の方法を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と消防団の指導を受けながら、職員・利用者・地域の方々が参加する自主防災訓練を年に2回実施している。方が一に備えて火災通報装置やスプリンクラーについて、業者から説明を受けている。防災チェックシートを作成し、毎日確認している。火災以外の災害についても、専門家や地域からの情報を得て、災害時の対応をシュミレーションしている。3日分の食料や防災用品を備蓄している。災害時の一時避難先や誘導を地域の方に協力してもらえよう、運営推進会議で話し合っている。自動火災通報装置から職員や地域の方に連絡が行くように設定し、職員の連絡網も作成している。	消防署や地域消防団の協力の下、ボランティアの方や町内会長、民生委員なども参加して、年間2回夜間を想定した火災避難訓練を行っている。地震を想定して、具体的なケアの状況に応じた避難方法を職員間で訓練したり、居間での避難を利用者と一緒に行っている。災害時における地域との連絡網や連絡体制、地域住民の役割分担を明確にして災害時に備えている。	火災以外の自然災害を想定して、家族の災害に対する不安や思いを聞き取りながら、災害時の対応を再確認して行きたい意向なので、その取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重するよう、認知症の人を理解し、適切なケアを研修を通して学び、毎日のケアに活かしている。誇りやプライバシーを損ねることのないよう、他の利用者との関係も配慮しながら支援している。不適切な対応や言葉掛けをしていないか職員同士で話し合っている。	入居時に、名前の呼び方について本人に確認して、名字か名前に「さん」づけにしている。普段の会話は、人格を尊重しながら、本人に合う話し方で対応している。個人情報である記録類の管理、保管に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人からの言葉を引き出せるような会話を心掛けている。言葉で表現出来ない利用者には、行動や表情から読みとるよう努めている。		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や要望に配慮して、柔軟に対応している。レクリエーションへの参加を呼び掛けるが、参加は自由としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	原則として本人の自由としている。訪問美容ではカットだけではなくカラーリングやパーマをしたり、行事の際にはおしゃれが出来るように支援している。体調や気温の変化に適した衣類の選択を支援している。		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事が出来るよう調理やお茶入れ、配下膳などを一緒に行っている。苦手な食品も調理法を工夫して食べられるように配慮している。誕生日には本人の希望する献立を作っており、行事の際は家族や地域の方を招いたり、戸外でバーベキューを楽しんでもらう取り組みも行っている。	食事は彩り良く美味しい味付けで、職員も一緒に食卓を囲み、調理に携わった利用者を労ったり、献立から会話を弾ませ、皆が笑顔になれる雰囲気を作っている。桜餅などの手作りおやつを始め、ホテルランチ外食、寿司の出前、一緒に好きなパンを買いに行くなど、多彩な食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが適切な食量や栄養が摂取出来るよう支援している。水分摂取が不足気味な方には、種類や形態に変化をつけて工夫しながらお出している。嚥下の悪い方の水分にはトロミをつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがいの声かけをして口腔内の清潔保持を支援している。義歯は夜間洗浄して預かっている。口腔内にトラブルが生じた場合は、家族に連絡して歯科受診に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをしながらパターンを把握して、トイレ誘導やパットの交換を支援している。失敗があっても、他者に気づかれないように配慮している。車椅子使用の方も、日中はトイレ、夜間はポータブルトイレを利用して、排泄の支援をしている。	声かけが必要な利用者のみ排泄チェックを行い、トイレ誘導等に役立てている。排泄面で重度化している利用者も日中はトイレでの排泄をサポートし、夜間は居室内にポータブルトイレを設置して、適宜使用するなど、自立排泄の継続を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維の多い野菜類やキノコ、ヨーグルト、寒天などを積極的に取り入れている。十分な水分摂取が出来るよう、スポーツドリンクや野菜ジュースなど変化を付けながらこまめに提供している。毎日体操をしたり、散歩や外出で体を動かすことが出来るよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるよう湯の温度や時間帯などの希望に対応するように努めている。入浴を拒む方には声かけのタイミングや言葉に配慮し、スムーズに入れるよう支援している。また、外出前や発汗など、状況によって柔軟に対応している。	入浴の基本的な取り決めはあるが、本人の意向を重視してシャワー浴中に急遽湯船に入れるようにしたり、入浴拒否時は無理強いしないように配慮している。入浴の意思を示してもらえぬ雰囲気作りを繰り返して行い、気持ちよい入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、昼寝を含めて安眠出来るよう環境を整えている。日中うたた寝をしている方には入床を促し、夜間入眠出来ない方には温かい飲み物をお出ししたり、話を傾聴しながらリラックス出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の情報を管理して確認している。薬の変更があれば、個人ノートに記録して情報を共有し、経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生き生きとした生活が送れるよう、一人ひとりに配慮して支援している。達筆な方には毎日の献立を筆ペンで書いて頂いたり、歌の上手な方にはレクリエーション時にリーダー的な存在になって頂いている。また、コーヒーやノンアルコールビールを味わって頂いたり、お気に入りの歌手のDVDを観て頂く支援をしている。		



グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自ら外出を希望される方はおられないが、天候や体調に配慮しながら、散歩や外気浴にお連れしている。全体行事として、花見・紅葉狩り・初詣・レジャー施設へボランティアや家族の協力を得てお連れしている。また、町内会主催のバーベキューや盆踊り、ピアノコンサートに参加したり、法人主催の夏祭りやクリスマス会にも出かける支援をしている。	天候の良い日は、外気に触れる機会を積極的に取り入れており、散歩以外に、玄関掃除や畑の草取り、バルコニーに出るなど、普段の生活の一コマとなっている。ガーデンの名所や町民ワンコインバーベキュー、特養ロビーコンサート、科学館への個別外出など、ボランティアの協力を得ながら、一人ひとりが満足できるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からおこずかいを預かり、自由に使えるよう支援している。外出時にお土産を買ったり、日用品の買い物やお賽銭などにも使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望される時は、事業所の電話で取り次いでいる。手紙が届いた時にはお見せして、後日家族にも伝えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エントランスやフロアーには季節を感じられる花や飾り付けを利用者と共に行っている。コンテナガーデンを作って室内で野菜の成長を楽しんで頂く支援を行っている。不快感や混乱を招くことのないように、照明やテレビ、音楽のボリュームを調整し、居心地良く過ごせるよう換気や冷暖房をこまめに調整している。また、家族にアンケートやサービス担当者会議で気づいた点を指摘して頂き改善に努めている。	全体的に木の温もりを感じさせるゆったりとした造りである。居間の大きな窓から見える自然豊かな景色は、食事中の話題にも上がり楽しんでいる。利用者の生き生きとした姿をスナップ写真に収め、季節感を盛り込んで工夫した掲示をしている。トイレの汚れはその都度丁寧に掃除をして、いつでも気持ちよく使えるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間とワークスペースにテーブルとソファを配置して、独りまたは利用者同士でのんびり過ごせるような環境をつくっている。雑誌や花の本、パズル、かるた、トランプなどを用意して自由に使ってもらっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたタンスや鏡台などの家具や家族写真を持参してもらい、心地よく落ち着いた生活が出来るように支援している。小さな仏壇を持ち込んで毎日拜んでいる方もいる。	大きめのクローゼットが備え付けられ、家具や日用品類は、馴染みの物を持ち込んでもらっている。本人の好きな設えに配慮しながら、混乱なく、安心して過ごすことができるような居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などは分かりやすく表示し、居室には表札や目印の花などを付けている。ホーム内はバリアフリーとなっており、廊下やトイレ、浴室に手すりを設置し、必要に応じてさらに追加している。危険な洗剤や刃物類は夜間戸棚に保管して施錠している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503510		
法人名	医療法人中山会新札幌パウロ病院		
事業所名	医療法人中山会 グループホーム夏桜		
所在地	札幌市厚別区青葉町16丁目2-26		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成25年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階はる風」に同じ
------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503510-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503510-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年9月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階そよ風アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体カンファレンスで毎月事業所理念と心得を齋唱している、その理念を共有しながらサービス提供をするよう実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事(ピアノコンサート、ごみ拾い等)に参加したり地域の方がボランティアとして毎月ホームに来訪されたり外出行事にも参加してくれる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で地域の方に「認知症基礎知識と関わり方」等の勉強会をさせて頂いてる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所での生活の様子、研修参加の取り組みを報告し意見を頂いてる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市の集団指導や厚別区グループホーム管理者会義に参加し不明なことがあれば直接、介護保険課に相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体カンファレンスの中で法令遵守や身体拘束の勉強をしている不適切な言葉の拘束についても日頃から注意している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止担当者を各階1名づつおり、外部研修として10/15に虐待防止について参加され、その報告を内部研修で発表し全職員が学ぶ。		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体カンファで権利擁護、成年後見制度について研修し成年後見制度についてはスタッフルームに貼り、活用出来るよう務めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を渡し、説明し同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の夏桜便りにてご家族に意見、要望の呼びかけをしたりご家族アンケートから得た内容を運営に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体カンファ、ユニットカンファで話せる場面を作り、内容によって上司の方に提案したり、運営に参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	SUS(スキルアップ)シートに自己評価して頂き、上司との個人面談している。外部研修参加を呼びかけスキルアップして頂くよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では介護福祉士や介護支援専門員の受験対策講座を定期的実施している。また片麻痺体験できるように実技体験も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回厚別区合同研修に職員が参加している。管理者は厚別管理者会議等をどうして交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報、24時間生活変化シートを使い、担当者がまとめ全員で共有しどのスタッフが対応しても安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居判定時に情報をお聞きし、プライバシーに配慮してスタッフで周知し、ご家族がどのスタッフに接しても安心できるように努めている。来訪時にもスタッフの方から進んで声かけし、馴染みの関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に利用者さん、ご家族様それぞれから生活の意向(希望)をお聞きしている。他のサービス機関からの情報も収集し、活かして支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアプランにあるサービス支援だけでなく、日々の生活の中で自然に利用者さんの方からお手伝いをして下さったり、お互いに暮らしを支えあっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月のお便りの他、来訪時には近況報告をし、行事参加の声かけもさせて頂いている。またご本人に何か新しい要望等が出た時には積極的に助言を頂くなど共に支える関係作りに務めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問は自由であり、以前近所に住んで居られたお友達が来訪時には居室でゆっくり過ごせるよう配慮させていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や体調をスタッフ間で周知し、大好きなことを活かして他利用者と関わることが楽しいと思ってくれるコミュニケーションが取れるような支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了してもご家族の理解を得て、移転先へ面会に行ったり、その後も関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで過去の情報を収集したり、日々の関わりを通して一人ひとりの言動や表情から思いや要望を把握するよう努め、本人の希望を尊重するよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご家族や本人からの情報、医師からの意見書等を収集し、一緒に生活していく中から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりについての毎日の記録等、全職員が共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の視点に立った計画作りに努めている。新たな課題はないか、適切なケアがされているか3ヶ月毎にモニタリングを行い、ご家族、医療機関の意見も反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録シートに食事、水分量、排泄、体調の変化等を記入し、職員が情報を共有し、実践しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診支援、買い物支援、本人やご家族の状況に合わせて個別対応を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るように町内会、地域ボランティア、消防機関等の協力を得ながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回母体協力病院の訪問診療をうけているが本人やご家族の希望するかかりつけ医を利用して頂いている利用者もおられる。必要に応じて職員が同行する等の支援をしている。		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の訪問看護で入居者様の身体の変化、生活状況を伝え、変化があった場合は看護師と連絡を取りアドバイスを受れたり、医師の診断に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に本人の支援に関する情報を医療機関に提出し、安心して治療出来るように入院中の本人、ご家族の支援を行なっている、又退院にむけて医療機関、ご家族から情報も頂いてる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に利用者が重度化した場合の対応に関する指針を説明させて頂いている。継続的に医療的な処置が必要な場合は主治医判断の下で入院を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救命講習を受講し、事故発生時等のマニュアルを備えカンファレンスで対応について話し合いや訓練を行い確認しあっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回夜間想定した自主防災訓練を行なっている。訓練には地域の方が5、6名参加して下さる。今年は地震時対応時訓練もいました。(トイレの中。入浴中、ホールにて)		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修、外部研修を通してプライバシーの勉強し、一人ひとりのその日の表情や体調等の状態に応じた言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、自ら選択できるような声かけを意識して行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や希望に配慮し、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の選択を優先し、毎日清潔な服等を身につけて頂いたり、訪問理容を利用されるよう個別支援を行なっている。		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みに配慮しつつカロリーにも気を付けている。誕生日には本人の希望する食事、ケーキを提供し、利用者と一緒に配膳したり、下膳したり行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日チェック表に記入している。水分は1000cc以上取るように徹底しています。また1日2回しか食事されなかった方にはラコールを飲んで頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前に口腔ケアの声かけとスタッフが義歯洗浄させて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄自立な方は見守りさせて頂き、介助が必要な方には時間誘導や声かけして排泄を促している。夜勤帯紙パンツでもお昼は布パンツにして頂く等、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、服薬管理する事で予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴できるように設定している。入浴中は利用者から普段聞けない大切な時間になっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活パターンやその日の状況に合わせて休憩して頂けるような声かけや誘導の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用等の情報は薬剤情報提供書や医師、看護師からの指導により全職員が共有している。薬の変更があったときは申し送りや個人ノートに記載し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事や好きな事を把握し、裁縫、散歩、ゲーム等、気分転換の支援をしている。		



グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事的な外出は年間行事計画を立て花見、紅葉狩り、初詣等、季節毎にご家族、地域のボランティアさんの協力を得て外出されています。またご家族来訪時には入居者様とご家族が散歩に行かれたりもしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人のお金の管理はおこなわれないが外出時にお小遣い程度の金額でお買い物をして頂いたりされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をかけたり、手紙を書くなどの本人に合わせた支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ヶ月毎に壁に入居者をモデルに楽しんでいる切り絵を作成し、季節毎の様子を楽しんで頂いています。書道が得意な方にはその季節にあった言葉を書いて頂いています。ホールも明るく居心地がよい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合う方でも二人だけで話すことにより不穏になる方もおられるので常に気配りと配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が希望される物、使いやすい物を状況に合わせて過ごしやすいように環境作りを支援している温湿度計にて温度、湿度の管理もさせて頂いてる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせて家事や畑仕事等、安全に参加して頂くように支援しています。ホーム内はバリアフリーとなっており家具の配置換え等は状況に合わせて適宜に行なっています。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム 夏桜

作成日：平成 25年 10月 4日

市町村受理日：平成 25年 10月 9日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	利用者の現在の姿がわかりづらい(記録が活かされていない)	利用者の現在の姿が分かるように工夫する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングも具体的内容を書く</li> <li>・アセスメントを活用する</li> <li>・ケアプランと記録を活用し次のケアプランに活かす</li> </ul>	10ヶ月
2	35	ご家族が災害時について不安はないのだろうか?	ご家族様の自然災害について不安を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年行っているアンケート調査の中に自然災害についての項目を入れる</li> <li>・ご家族に災害時ご家族連絡網ができていますのでお知らせする</li> </ul>	10ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。